

最強 祓清祈願

天上界におられる男性大霊カムロギと女性大霊カムロミは、

諸神霊に集合を命じて、地上にもユートピアを拓こうと、

会議を重ねられ、天皇家の祖神となられる神が、緑豊かな

水穂の国にそれを建設しようということになった。

そこで、先遣隊の神々が、地上の荒ぶる神々を次々に折伏し、

封印掃討を重ねられたのである。神々は岩の大地、樹木の森、

草原の自然とも交流して鎮めた後、天上の御座所を開き、

天の八重雲を千々に別けて降臨されたのである。

こうして、地上各地の荒ぶる神々をおとなくさせた後、

ニニギの尊が「大和日高見の国」（高邁なる理想の国 日本）と

して、此処に地上ユートピアを建設しようとして降臨され、

地上の荒野を開いて太い柱の宮殿を建立された。

天上界に向かって高くそそり立つ木組みは、最高位に立つ

天皇の建物であり、神殿かつ宮殿として、そこにお住まいにな

られ、ユートピア建設の政治中枢となさった。

天皇がこの様に統治なされた国ではあったが、天上界から地上に生まれ変わった多くの人々が、国中で様々な罪を犯すようになってしまったのである。

例えば、朝廷の命令による処罰対象は、水田のあぜを崩すこと、

田に水を引く溝を埋めて引き水を妨げること、もともとなる灌漑

用の水路を破壊すること、他人が穀物の種子をいったん蒔いた

上に、さらに種をまた蒔いて、植物の成長を妨げること、串の

目印を他人の田畑に刺して、自分のものだとして横領すること、

法外な値段をふっかけて他人の持ち物を剥ぎ取ること、動物の

皮を尻から剥ぐような動物虐待をすること、汚物をまき散らす

こと、である。こんなにも多くの朝命の処罰を知らされている

のである。

人々が地上で犯す罪とは、傷害罪、死体遺棄罪、白子皮膚病、

癩や疣の皮膚病、溺死罪、放火、近親相姦、母子凌辱、獣姦、

虫害、落雷、禽害（鳥の害）、家畜殺し、呪詛、これらを地上で

の罪として知らされているのである。

こんなにも多くの罪が発生してしまったので、宮中の神事を開

催され、大中臣がその任に当たり、木の頂点は切り出し、底は

木を切断した、ピラミッドを制作して大会場の台上にしっかり

設置した。また、八本にスゲを裂き束ねて上端を切り揃え、下

端は裾を刈り揃えた角錐の神器をしつらえ、そして

天上界から降ろされた最強の秘禱神言を宣した。

（往時の秘禱神言は、神から降ろされた大中臣家に口伝で

継承されてきた秘伝であり、その内容がこの段で奏上さ

れたと思われる。従って、祝詞でも空白となっており、

「かみながら〜」と唱えることになっている）

かみながら かみながら かみながら・・・

このように述べると、天上界の神々は天の岩戸を開けられて感

応され、幾重にも重なった雲を千々に別ける靈験をもって、祈

願をお聞き入れになった。

地上の神々は高い山や低い山の頂上に登られ、山々に立ち籠め

る霧霞を左右に別ける靈験をもって、祈願をお聞き入れになっ

た。

このように天上界も地上界の神々も祈願をお聞き届け下さったので、神の皇孫たる天皇の朝廷から始まって、天下の各地の国に、罪と云う罪は一切消滅したのである。

それはあたかも、吹き出す強風が八重雲を吹き飛ばすが如く、

朝の深い霧、夕の深い霧を朝風、夕風が吹き掃う如く、

大棧橋に停泊中の大船の艦綱を放ち、舵を解いて大海原に押し

出す如く、見渡す限りの繁茂した木々の根本を、焼入れた鋭

い鎌でバツサリ打ち掃ってしまおう如く

神々は、此れら地上界の罪は消え去るしかないのだと、

抜い清めて下さったのである。

即ち、高い山の頂き、低い山の頂きから水が激しく流れ落ちて、

滝や早瀬になっているところに居られる「瀬織の姫」と云う神

様が、洗い流された罪々を大海原に持ち去って下さるのです。

この様に持ち去って頂くと、今度は荒海の沖に居られる

「速開の姫」と云う神様がこの罪々を、かかっと飲み乾して下

さるのです。

この様に、かかっと飲み乾して頂くと、今度は靈気が吹き出てくる所に居られる、「気吹戸」と云う神様が飲み込まれた罪々を地下の地獄界に、悪しき靈気を吹き放ってしまわれるのです。

この様に悪しき靈気を吹き放って頂くと、地下の地獄界に居られる「速佐須良の姫」という神様が何処かへやって消滅させてしまわれるのです。

この様に消滅させて頂き、今日から始まって以後、罪と云う罪は消え去るしかないのであると、天上界の神々に抜い清めて頂くことをお聞き届け下さるようお願い申し上げます。

平成二十六年六月末日

拙訳 大中臣 正比呂

奉奠 天上界諸神靈

